C15 アオダイショウ幼蛇咬傷の2例とマムシ咬傷の2例

○塩田恒三¹, 竹中秀也², 後藤智子², 村上正文², 宮本はるみ², 片上千絵², 齋藤卓也² (¹京都府大・医動物, ²京都府大・皮膚)

Two cases of juvenile blue-green snake (*Elaphe climacophora*) bites and 2 cases of mamushi (*Agkistrodon halys*) bites

Shiota, T., Takenaka, H., Goto, T., Murakami, M., Miyamoto, H., Katakami, C., Saito, T.

①8歳, 男性. 右第4指を咬まれ1時間後ヘビを持って受診. 咬み口は1個, 軽度疼痛. 発赤, 腫脹は認めず. 咬み口を洗浄. ソリタTの投与等で経過観察. ヘビは体長33cmのアオダイショウの幼蛇. ②40歳, 男性. キャンプ中に左下腿を咬まれ蛇を持って受診. 3条の線状の紅班を認め, 出血傾向は認めず. 経過観察. ヘビは体長約35cmのアオダイショウの幼蛇で, 上顎に4列の, 長さ約1mmの鉤が各20本程度縦に並び, 一部は脱落. ③20歳, 男性. 咬傷4時間後にヘビを持って救急受診. 右前腕に軽度の腫脹と疼痛. 右親指外側に1個の牙痕. ヘビは体長約45cmのマムシの成蛇. セファランチンを中心とした治療を2日間行い, 疼痛, 腫脹は軽減. ④9歳, 男性. 下校時に左第2指を咬まれ, 咬傷35分後にヘビを持って救急受診. ヘビは体長約22cmのマムシの幼蛇. 牙痕1個を認め手関節部まで腫脹, 疼痛. マムシ抗毒素ウマ血清とセファランチン等を併用. 5時間後左手全体腫脹. 第3病日には腫脹も軽減. アオダイショウ幼蛇の背面の斑紋がマムシのそれと一見して似ていることから注意が必要と考えられた.

C16 血圧低下を伴ったツツガムシ病の1例

○大滝倫子¹, 古屋由美子² (¹九段坂病院, ²神奈川衛研)

A case report of Tsutsugamushi disease with hypotension

Ohtaki, N., Furuya, Y.

症例: 59歳, 女性. 初診: 平成13年11月28日. 現病歴: 同年11月10日より11日にかけて山中湖付近を旅行中, 富士山麓演習地近くで落ち葉を集めた. 11月20日より39-40℃の発熱と右腋に痛みを覚え, 11月23日近医を受診, 感冒薬, 解熱剤を処方. 翌日(11月24日)より皮疹を生じ, 薬疹を疑われて服薬は中止. 発熱, 皮疹は軽快せず. 11月28日(第9病日)当科受診, 即刻入院の上ミノサイクリンの治療を開始したが, 30日までの3日間38-9℃の発熱が続いた. 初診時には顔面を含む全身に紅斑が散発し, 右腋窩に刺し口, それに接してリンパ節の腫脹を認めた. 検査結果: 血小板 9.7万, 血圧 78/40. 抗体価: Kuroki 株に対し, 急性期 IgM: 160, IgG: <10, 快復期 IgM: 1280, IgG: 320 などの価を示した.